

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー機関誌

2015年10月号

# はなしあい

題字 元総理 片山哲 筆

発行編集人

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
代表理事 小久保 正

発行所

日本クリスチャン・アカデミー  
京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
075 (711) 2147

NIPPON CHRISTIAN ACADEMY

第568号

「安保法制」に反対する若者たちの「国民なめんな」という声を、同じくこの法案に反対する人たちのなかから批判があった。「国民」という言葉が日本国籍を持つ者という理解から、在日外国人を排除しているというのがその理由であった。「平和と民主主義をこわすな」という声に対しても、これまで平和や民主主義が本当にあったのかという批判が出された。

それらの批判を聞いたときに、もつともな面があると承認しつつ、それでもなお今ここでこれを批判してどうするかという思いを持たされた。言葉の厳密性や歴史への観点の違いを強調することは、反対の声が分断されるだけではないか。分断によって得るのは誰であるかは言うまでもない。

社会的盛り上がりみせた運動が、党派闘争によって弱体化していくのは、これまで見てきたことである。

大きな公共事業がおこなわれるとき、地元からの反対運動がおこり、それに対し別の地元民から賛成運動がおこる。ダムや干拓による自然環

境破壊、原子力発電所や放射能廃棄、基地騒音や航空機墜落の危険、新たな基地建設による埋め立て、そして基地があることによる戦争協力。外部から持ち込まれた問題が、政治的対立や利害対立を生み出していく。このようなときに辛く悲しい思いにさせられることは、賛成派反対派と、地域が分断されることで

## 分断に抗して

日本クリスチャン・アカデミー評議員

横野 朝彦



はないだろうか。時には家族までも分断されることがあると聞いている。

分断統治、あるいは分割統治とも呼ばれるが、支配者が人々を競わせ、評価を与え、経済的有利や不利を与える。それにより、支配者に向かうべき人々の怒りを、より低い階層への差別やささやかな優越へと変えていく。

いた身分制度は、分断統治の典型例であろう。それは封建制の時代だけの話ではない。今日においては広がり続ける経済格差、学歴格差、就労格差、健康医療格差。それらの

格差は、生活保護が手厚すぎるといった批判によって分断がさらに進められている。

大きな規模で考えるならば、古代ローマ帝国は、支配下にある属国を弱体化させるために分断し、また都市間の

連帯を禁じたという。この手法は近代の植民地支配においても有効な手段として用いられたと考えられる。今日の時代において日本の国が近隣諸国との関係がうまくいっていないのは、うまくいかないことを望んでいる人がいるからかもしれない。

「平和の祈り」という、キリスト者によく知られた祈りがある。讃美歌にも訳詩され、「平和の道具とならせてください。憎しみに愛を、戦に和解を。分裂に一致・」と歌われている。この詩を、作家であり作詞家でもある新井満は「自由訳」として、「どうか、このわたしを楽器にしてください。分裂のあるところには団結のしらべを」と訳した。

この言葉をもとにして、さらに言い換えをさせていたただくならば、「分断のあるところには連帯を」となるだろう。

わたしたちアカデミーがおこなっている「はなしあい運動」が、互いの意見をぶつけ合いながら、その違いを乗り越える力となるように、分断に抗する力となるようにと願わずにおられない。

(日本基督教団蕃町教会牧師)

関東活動センター新規プログラム

●2015年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅰ

「古典で読む20世紀第Ⅱ期」

講師 農村伝道神学校講師 武田 利邦さん

第1回2015年5月22日(金)  
第2回2015年7月24日(金)

会場 早稲田教会

受講者報告  
「実行しつつ考える」

坂内 宗男

思いがけないことから武田利邦講師による「古典で読む20世紀」第Ⅱ期に参加が許された。昨年キリスト者平和ネットの会場で偶然に武田氏が配布されたチラシから本講座を知り、今年になって再度今年度のチラシを見て参加を決意したのだった。多少ためらったのは、高齢(八〇歳)以上に二〇一二年度から偶然に週刊金曜日(に)に広告された石塚省二氏(東京情報大学)による「ルカーチの存在論」講座(二二回目、マルクス主義普及に多大な貢献)に魅かれ、毎月お茶の水(中大駿河台記念館、年一〇回)に通い

始めたことであつた。氏はルカーチ(ハンガリー)研究の特異な社会哲學家といわれ、豊富な知識をもつて日本を含まれた思想家達を縦横に分析されるので、頭の訓練にはなるが多少の混乱をきたし、二年が限度と氏に退会届を出して辞め、氏から公開講座へのお招きを受けた矢先に肺炎で急逝(昨年五月)された中での武田講座との出会いだったのである。  
皇国少年であつた私は小五で敗戦を迎え、田舎(会津)の仮校舎で中・高校を過ごした者には、ハンガリーの時代にて図書まじりや古典を読むなど夢のまた外、しかし農村の貧困と土建家政治にすぎる実体に義憤をもち、地元大学にてマルキシズムに触れたこ

とは大きかつた。そして更なる学びのため中退、東京に入るや予期せぬ肺結核となり入院(一年半)、そしてキリストとの奇しき出会いと六〇年安保の渦中で、在日者差別問題に触れ、平和と天皇制問題にシフト。福音に生かされ、神の経綸からこの世を見詰めるようになったのだった。本講座の特徴は、昨年はウエーバー↓マルクス↓ニーチエ↓キルケゴールであり、今年度はサルトル↓レーニン↓カーソン↓バルト↓フロムと珠玉の図書選択にある。これ即ち講師の思想的反映と受止め、博識と血の通つた教示と学びには感謝は尽きない。生涯学習の意気で、笠信太郎(はりに、英国タイプ)の如く歩き乍ら考え、生かし、地の塩として歩み、栄光を主に帰したく願う。「はなしあい」誌に久し振りに接して。

(キリスト者政治連盟委員長)



●2015年度 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ  
「これでもいいのか日本のキリスト教」  
「3・11を生きるキリスト教」

日本基督教団東北教区被災者支援センター  
タチ・エマオ専従者、いすみ愛泉教会副牧師

佐藤 真史さん

2015年9月12日(土)

会場 日本キリスト教団早稲田教会

共催 早稲田奉仕園

9月12日、関東活動センターのプログラム、「これでもいいのか日本のキリスト教」の講演会がありました。このシリーズは、現在各地で活躍している若い世代のクリスチャン・リーダーたちを招いて、停滞しているキリスト教界への率直な批判や提言をしてもらおうという企画です。第一回は、東北教区被災者支援センターエマオのスタッフ佐藤真史さんをお招きして、「3・11を生きるキリスト教」というテーマで話しても

らいました。エマオは、東日本大震災以降、特に仙台の海岸地域の津波被災者たちの支援活動を中心に活動が続けてきました。佐藤さんは、仙台のいすみ愛泉教会の担任教師と兼任で、エマオの教団派遣スタッフを担っています。  
震災から四年半が経過し、仙台地区では復興住宅の建設が進み、来年春には仮設住宅が廃止になるので、被災者たちの復興住宅への移転が進められています。仮設住宅はプレハブ作りなので、冬は寒く夏は暑く、住環境もよくありませんでした。それに比べればコンクリート造りの復興住宅の方が住居として優れていることは明らかです。しかし仮設住宅は無料だったのに、復興住宅はそれぞれの収入に応じた傾斜家賃ですが有料に



らいました。エマオは、東日本大震災以降、特に仙台の海岸地域の津波被災者たちの支援活動を中心に活動が続けてきました。佐藤さんは、仙台のいすみ愛泉教会の担任教師と兼任で、エマオの教団派遣スタッフを担っています。  
震災から四年半が経過し、仙台地区では復興住宅の建設が進み、来年春には仮設住宅が廃止になるので、被災者たちの復興住宅への移転が進められています。仮設住宅はプレハブ作りなので、冬は寒く夏は暑く、住環境もよくありませんでした。それに比べればコンクリート造りの復興住宅の方が住居として優れていることは明らかです。しかし仮設住宅は無料だったのに、復興住宅はそれぞれの収入に応じた傾斜家賃ですが有料に

なりません。そこでは当然のことながら、格差が生じることになります。これからの生活設計が立てられる人たちはいいのですが、お年寄りや障がい者等、今後の生活の目途が立てられない人たちは、うまく適応できないという事態になっていくそうです。つまり「復興」が、これまで等しく被災者であった人たちに新しい格差をもたらすことになっているというのです。これはやむを得ないという側面もありますが、これまで同じ被災者として過酷な生活を共に支え合ってきた被災者たちを分断することでもあります。エマオのスタッフたちは、仮設住宅に取り残されているお年寄りたちに最後まで寄り添う姿勢で、その生活を支える活動を続けて行こうとしています。

もう一つ紹介されたのは、東北教区放射能問題支援対策室「いずみ」の働きです。福島では、子どもたちの甲状腺検査が無料で受けられますが、事故を起こした福島第一原発から離れているという理由で宮城県では実施されていません。「いずみ」は、希望

者に無料で専門医による検査を行っており、宮城県南部の各地で定員を超える申し込みがあるそうです。佐藤さん自身、二人の幼い子どもを抱えての苦衷を語りながら、この「いずみ」の働きの大切さを強調していました。ともかく被災地の最前線で被災者たちの現実に関わり添いながら働く若者の姿に感銘を受けました。そしてその働きを覚えて支援を続けなければと考えさせられました。(戒能信生)

関西セミナーハウス活動センター

●2015年度「開発教育セミナー」第2回

「今、世界でおこっていること」イスラームが問題なのか？」

京都大学大学院人間・環境学研究科教授 岡 真理さん  
2015年7月18日(土)～19日(日)

22名の参加者と共に実施した第1セッションでは、「中東イスラーム世界入門」ということで、岡さんの解説をもとに中東やパレスチナの概念

について学んだ。イスラーム世界の「多様性」と「異教徒との共生の歴史」について多くのスライドや具体例をもとに紹介していただき、私たちの認識の中にある偏見に気づかされた。

第2セッションでは、パレスチナ問題について、イスラエルの占領はシオニズムにもとづくパレスチナ人に対する計画的・組織的な民族浄化であること、昨夏のガザ攻撃とそれを95%のイスラエル人が支持していること、などにつ



いての詳細な報告を聞いた。第3セッションでは、ガザの封鎖の実態やパレスチナに開く様々な立場について知った。パレスチナの人々がおかれている圧倒的に不条理な状況に言葉を失うほどの衝撃を受けたが、たった一人で徴兵拒否をするイスラエル高校生が存在を知り心を動かされた。

岡さんの「パレスチナ問題は人間であり続けることへの闘いである」という言葉が印象に残る。中東について私たちが「知らない」「知らされていない」ことを自覚し、「正しく知ろうとする」ことが「テロとの戦い」という言説を乗り越える重要な一歩になる。

●2015年度 共催プログラム

「エキュメニカルネットワーク第1回協議会」  
「日本におけるエキュメニカル運動の課題と展望」

主催 エキュメニカル・ネットワーク  
2015年8月24日(月)～25日(火)

2014年2月に「日本におけるエキュメニカル運動の推進および研究」を継続することを目的に、エキュメニカル・ネットワーク(E-line)が発足した。昨年の世界教会協議会(WCC)総幹事を迎えて「クリスマス平和の祈りの集い」(12月7日)の開催を経て、この度第1回協議会が開催された。初日は、基調報告を金英周氏(韓国基督教教会協議会総務)、網中彰子氏(日本キリスト教協議会総幹事)が行った。2日目は、宮内陽子(カトリック大阪大司教区社会活動センタースタッフ)、呉光現(聖公会生野センター総主事)、クリスチャンヘアマンセン(関西学院大学法学部教授)各氏をパネラーとするシンポジウムと、総合討論が行われた。

**プログラム案内**

◆**関東活動センター**

■**聖書講座2015「新しい聖書の学び」**

「イエスの譬え話」に響く声(全10回)

講師：山口里子さん(日本フェミニスト神学・宣教センター共同ディレクター)

日時：⑦11月10日⑧12月8日、火曜18:30~20:00

会場：早稲田教会ロビー

参加費：1,200円/学生500円

テキスト：『イエスの譬え話1』

共催：早稲田奉仕園

■**関東フォーラム「今日的課題」**

「『自死』に遭遇した人への慰めとは一牧会の現場から第2期」(全5回)

講師：賀来周一さん(キリスト教カウンセリングセンター相談室長)

日時：⑤11月9日、月曜14:00~16:00

会場：日本聖書神学校

参加費：1回2,000円

定員：10名(先着順、要申込み)

協賛：日本聖書神学校キリスト教研究所

■**関東フォーラム宗教対話II**

『『ことば』を届けるために 礼拝のためのボイストレーニング』(全5回)

講師：友野富美子さん(日本キリスト教団八王子子栄光教会担任教師、声優)

日時：9月28日~10月26日、毎週月曜15:00~17:00

会場：日本聖書神学校

参加費：3,000円(全5回分)

財団本部 <http://www.academy-nippon.com>  
 関東活動センター <http://www.academy-tokyo.com>  
 関西セミナーハウス <http://www.kansai-seminarhouse.com/>  
 関西セミナーハウス活動センター <http://www.academy-kansai.org>

公益財団法人 **日本クリスチャン・アカデミー**  
 代表理事 小久保 正

本部事務局  
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
 TEL 075-711-2147  
 FAX 075-701-5256

関東活動センター  
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
 日本キリスト教会館6F  
 TEL 03-3207-6198  
 E-mail:info@academy-tokyo.com

関西セミナーハウス/  
 関西セミナーハウス活動センター  
 〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町23  
 FAX 075-701-5256

関西セミナーハウス  
 TEL 075-711-2115  
 E-mail:info@kansai-seminarhouse.com

関西セミナーハウス活動センター  
 TEL 075-711-2117  
 E-mail:office@academy-kansai.org

定員：20名  
 共催：日本聖書神学校キリスト教研究所

■**関東フォーラム宗教対話III**

「これでいいのか日本のキリスト教」

日時：11月7日(土)

14:00~16:30

講師：森小百合さん((公財)日本YMCA 同盟 学生YMCA 専従スタッフ)

会場：早稲田教会ロビー

参加費：1,000円、学生500円

共催：早稲田奉仕園

■**関東フォーラム宗教対話I**

「古典で読む20世紀 第II期」(全4回)

第4回「K.バルト『教会と国家I』(新教出版社)」

日時：11月27日(金)18:30~20:30

講師：武田利邦さん(農村伝道神学校講師)

会場：早稲田教会ロビー

参加費：500円

◆**関西セミナーハウス 修学院きらら山荘**

■**第3回もみじまつり薪能**

第26回 能『鶴(ぬえ)』

日時：11月20日(金)17:00~

解説・出演：林宗一郎さん(観世流能楽師)

会場：関西セミナーハウス

特別観賞料金：3,500円、大学生2,000円、小中高1,500円

■**月釜 清心会**

日時：11月8日(日)、12月20日(日) 9:00~15:00 受付(1、8月を除く年10回)

於：関西セミナーハウス

年会費：5,000円、臨時会費1,000円

◆**関西セミナーハウス・関西セミナーハウス活動センター共催**

■**2015年度もみじまつり**

日時：2015年11月23日(月祝) 9:00~16:30

会場：関西セミナーハウス

お茶席、邦楽席(箏演奏)

特別展示「アジアキリスト教美術展

一竹中 正夫 コレクションより」  
 ジャズピアノコンサート「戦後70年、日本と世界の秋の音楽」

竹中 真さん(ピアニスト、作曲家)  
 前売：3,000円(お茶席、弁当付)

◆**関西セミナーハウス活動センター**

■**2015年度 開発教育セミナー**

第5回「グローバル競争に左右されない暮らしを創る ~ゆとりと豊かさを実感できる社会へ」

講師：松平 尚也さん(NPO法人AMネット代表理事・百姓)

日時：11月7日(土)16:00~8日(日)12:00

第6回「ファシリテーターの聞き方、話し方、向き合い方」

講師：木下 理仁さん(かながわ開発教育センター理事・事務局)

日時：12月5日(土)16:00~6日(日)12:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：10,500円(1泊2食込)

■**2015年度修学院フォーラム「福祉」**

第2回「子どもたちに寄り添う~いじめ・虐待・非行の現場から~」

講師：坪井 節子さん(社会福祉法人カリヨン子どもセンター理事長・弁護士)

日時：11月14日(土)13:30~17:30

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般2,300円、学生1,000円

■**2015年度修学院フォーラム「エネルギーを考える」第4回**

「核」の縄目からの解放に向けて」

講師：川上 直哉さん(NPO法人東北ヘルプ事務局長)

飯田 哲也さん(認定NPO法人環境エネルギー政策研究所所長)

日時：2016年1月10日(日) 16:00~11日(月祝)16:00

会場：関西セミナーハウス

参加費：一般14,000円、学生5,000円(宿泊3食込)

**賛助会費・寄付金報告**

2015年8月1日~2015年8月31日  
 (順不同・敬称略)

◆ <b>財団本部</b>	
寄付金	
武藤 高司	10,000
横野 朝彦	100,000
◆ <b>関東活動センター</b>	
賛助会費	
吉田 豊	3,000
寄付金	
服部 千賀子	5,000
加藤 真規子	3,000

◆ <b>関西セミナーハウス活動センター</b>	
賛助会費	
相浦 和生	3,000
中村 信博	10,000
桜井 希	5,000
都木 かおり	3,000
寄付金	
中村 信博	30,000
宮庄 哲夫	5,000
以上、感謝をもってご報告申し上げます。	